

「ガラスの百科事典」朝倉書店

社団法人ニューガラスフォーラム

七尾 純児

Junji Nanao

New Glass Forum

本書は昨年10月に初版が朝倉書店より出版され、定価は20,000円である。内容は、「ガラスの百科事典」にふさわしく、ガラスの歴史、ガラスアート、日常生活を取り巻く様々なガラス、先端技術としてのガラス、ガラスの製造・進歩、環境・エネルギー問題との関わり、様々なガラスの物理・化学的な性質、と広い範囲を網羅している。

本書の序に、「ガラスのすべてを紹介する辞典です。ガラスの歴史・工芸の関係者、ガラスの科学者・技術者をはじめ、ガラスに関心のある方のご参考になることを目標として編集しました。」とあるが、目論見通りの本となっていると感じた。

本文は7部、21章、195項目で、649ページを125名の方が執筆している。項目数、執筆者数を見ても、いかに広い範囲の項目をそれぞれの専門家が執筆しているということが分る。最初に目次に目を通したが、目次からだけでも、ガラスの深さと広さ、日常生活との様々な関わり、そして未来技術と、様々なガラスに出

会え、私にとってガラスの魅力の再認識となった。本書の各部、各章のタイトルとそれぞれの項目数、執筆者数を表1にまとめた。本書の概要をあるていど把握できると思う。

本文の各項目は2ページ、あるいは4ページ毎にまとめられており、一般の百科事典よりははるかに多くの内容が記載されている。今までまったく知識がなかった方はもちろん、少し知識が有る方にとっても手元にあると便利に活用できそうである。一方、一項目を読み切るのに抵抗のない、ちょうどよい文章量である。また、参考文献が記載されているのもよい。

目次から、以前から知りたいと思っていたがごく断片的な知識しかなかったガラスの歴史を知りたく、またタイトルにも惹かれてまず第I部「ガラスの華やかな歴史」を開いた。ガラスに関わるドラマを読むように、126ページを単独の書物のように読んでしまった。また本書の各章の後にはコラムがあるが、コラムのタイトルに惹かれ全コラムを読んでしまった。第III部から第VIII部まではガラスの製品・技術・物性である。これまでガラス基板等を使用して電子関連製品の開発及び製造に携わってきた立場から、またガラスの周辺で仕事をしてきた立場から読んだが、手元に本書があれば当時の仕事を行う上で役に立ったであろう記述が複数あつ

〒105-0004 東京都港区新橋 2-12-15
田中田村町ビル 8階

TEL 03-3595-2775

FAX 03-3595-0255

E-mail: nanao@ngf.or.jp

た。

社団法人ニューガラスフォーラムで仕事を
してまだ1年であるが、それでも執筆者の中に名

前を知っている方を多数見かけ、それらの方々の
専門分野が伺い知れて興味深かった。本書の
本来の目的ではないかもしれないが。

表1 目次のタイトルより

タイトル	項目数	執筆者数	ページ数
第Ⅰ部 ガラスの華やかな歴史	32	16	122
1. 古代文明とガラス	13	3	57
2. 中世・近世のガラス	8	4	35
3. ガラス製造工業の成立	6	5	19
4. 天然ガラス	5	4	11
第Ⅱ部 魅力溢れるガラスアート	18	4	68
5. 現代のガラスアート	7	1	29
6. ガラスアートの技法	11	3	39
第Ⅲ部 現代生活を潤すガラスのいろいろ	39	40	118
7. 身の回りのガラス	7	7	21
8. 住とガラス	13	13	41
9. 映像機器とガラス	10	10	29
10. 健康・医療とガラス	9	10	27
第Ⅳ部 交通・通信に欠かせないガラス	27	22	81
11. 自動車・電気のガラス	10	8	27
12. 光通信とガラス	10	7	29
13. 先端技術ガラス(将来のハイテクガラス)	7	7	25
第Ⅴ部 ガラスの製造：進歩の連続	21	17	60
14. 工業用ガラスの溶解	8	6	21
15. ガラスの成形と加工	13	11	39
第Ⅵ部 環境・エネルギー問題に取り組む	13	12	34
16. ガラスをとりまく環境問題	10	9	23
17. エネルギーを創るガラス	3	3	11
第Ⅶ部 ガラスとは何だろう	45	39	144
18. ガラスの定義・ガラスの種類	7	6	23
19. ガラス独自の振る舞いと構造	9	8	35
20. ガラスの特性	20	17	61
21. 熱や光による性質の変化	9	8	25
総項目数	195		
執筆者総数		126	
本文総ページ数			627
コラム(21項目)総ページ数			22